

調査の概要

瀬戸市の結果

1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査の対象 小学校第6学年、中学校第3学年の児童生徒

3. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数・数学）

- ・学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題

(2) 生活習慣や学校環境に関する質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査

- ・学校に対する調査

4. 調査方式 悉皆調査

5. 調査日時 令和6年4月18日（木）

教科に関する調査 結果報告

小学校

瀬戸市内小学校の「成果（◎）」と「課題（▲）」

平均正答率（％）	全国	愛知県	瀬戸市
国語	67.7	65.0	◎文章を読み、登場人物の人物像や心情について、描写を基に捉えることができる。 ▲文章から読み取ったことや自分の考えたことを、他者に伝わるよう工夫して書くことに課題がある。
算数	63.4	64.0	◎「数と計算」の領域において除数が小数である問題を正確に計算することができる。 ▲図形及び数量の関係や性質を捉え、状況に合わせて使うことに課題がある。学習したことを使える知識として定着させていくことが大切である。

瀬戸市内中学校の「成果（◎）」と「課題（▲）」

平均正答率（％）	全国	愛知県	瀬戸市
国語	58.1	58.0	◎文章を正しく読み取り、読み取った内容について正しいものを選択して答えることができる。 ▲自分の考えを、話したり書いたりして相手に工夫して伝えることに課題がある。
数学	52.5	55.0	◎「数と式」の領域で、目的に応じて式を変形させたり、意味を読み取ったりすることができる。 ▲「数と式」の領域で事柄が成り立つ理由を説明することや、「図形の領域」で図形の性質を基に筋道を立てて証明することに課題がある。

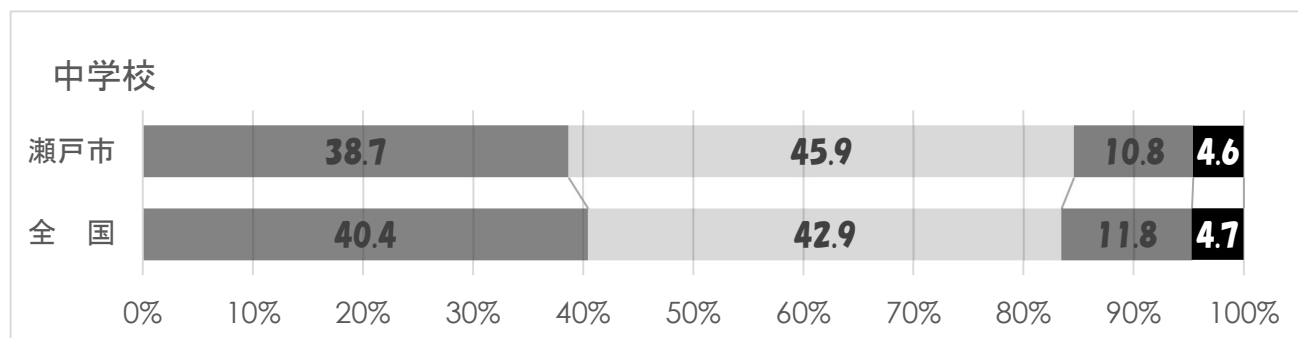
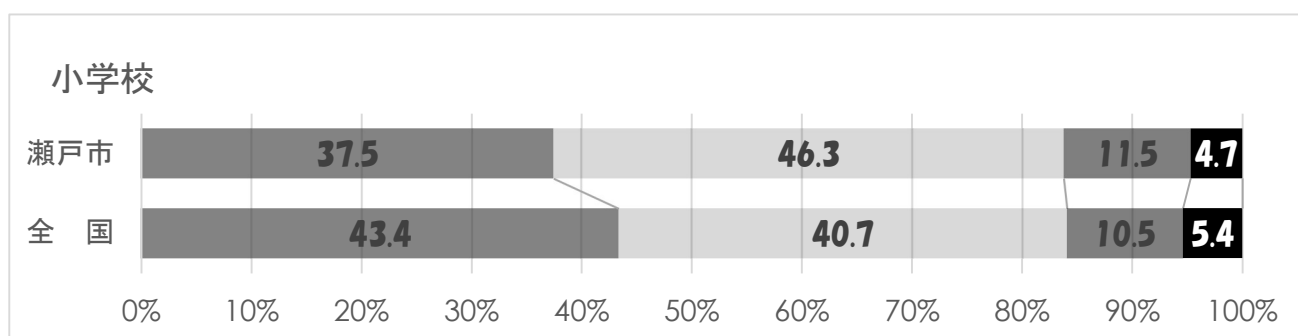
課題として挙げた内容と各校での分析結果をふまえ、基礎的・基本的な力の確実な定着と、自分の考えを学んだ知識と関連付けるなど、工夫して伝え合う力の育成を目指していきます。



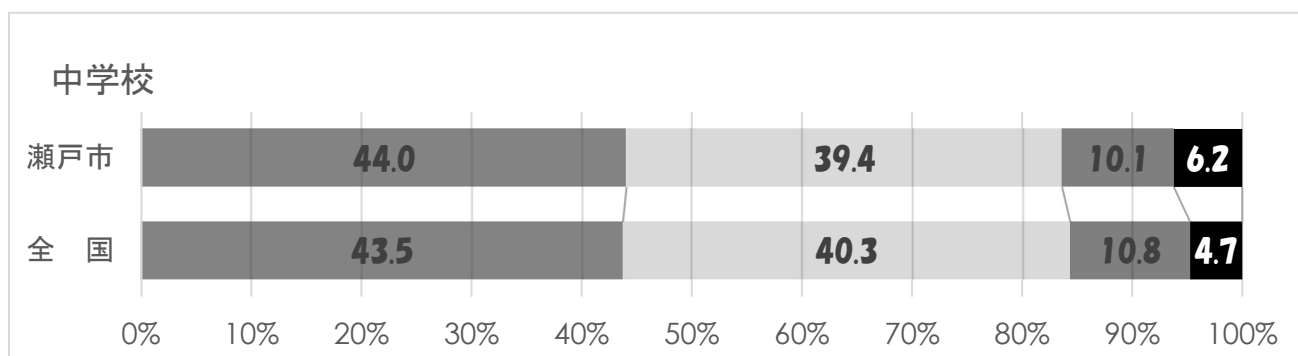
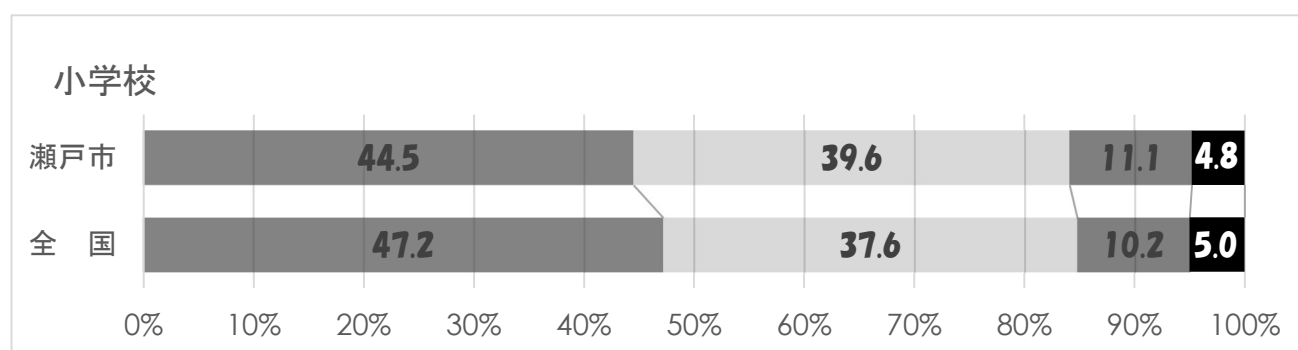
★グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。

子供達の意識

◇自分には、よいところがあると思いますか

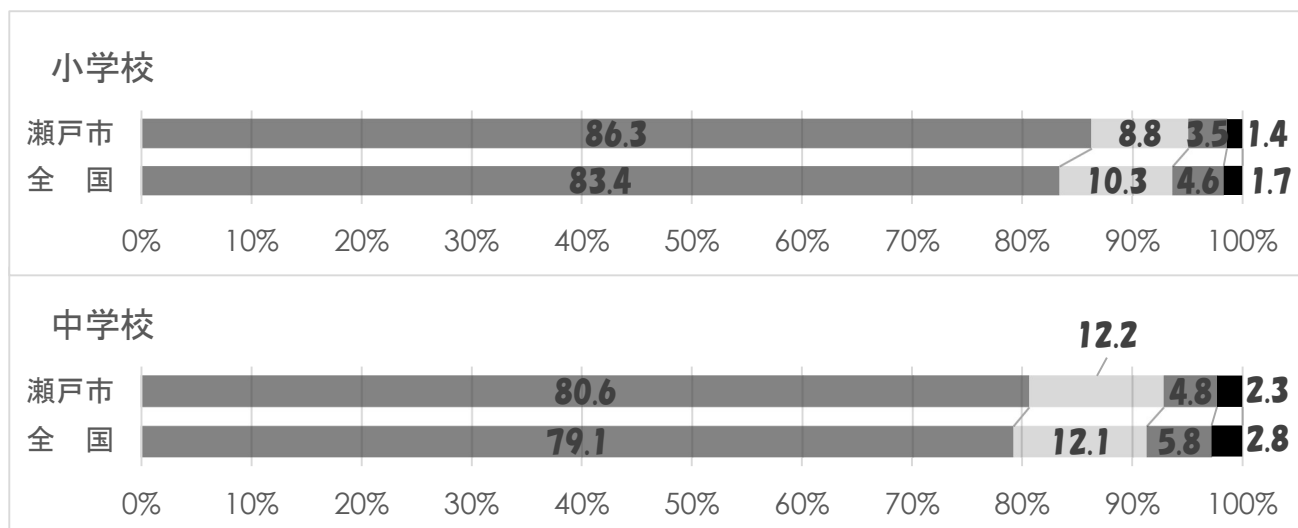


◇学校に行くのは、楽しいと思いますか

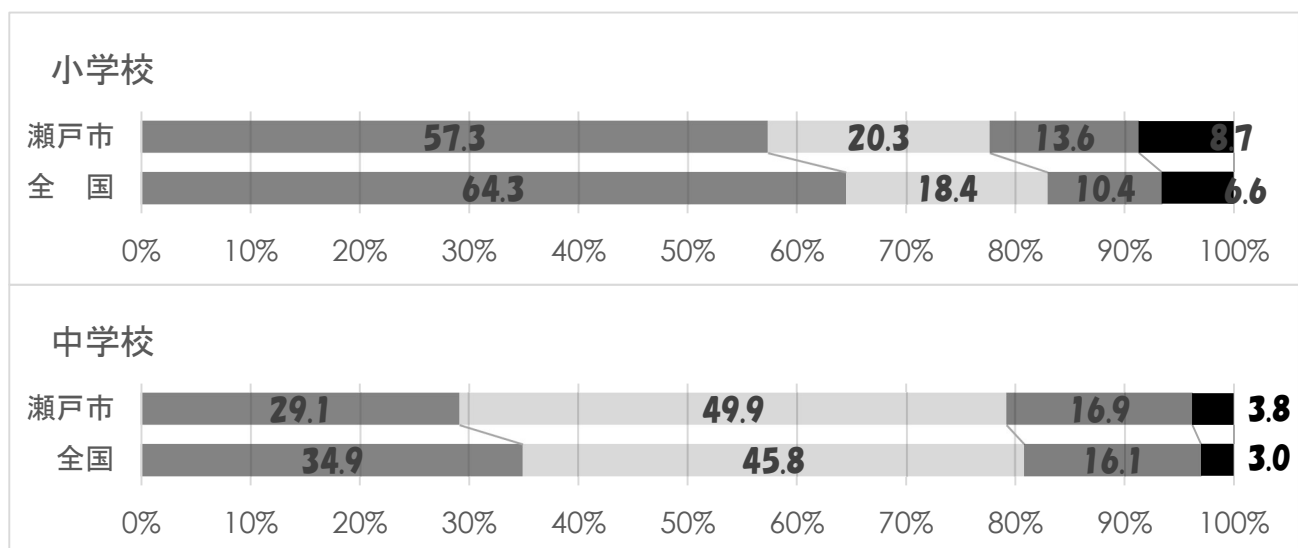


基本的生活習慣

◇朝食を毎日食べていますか

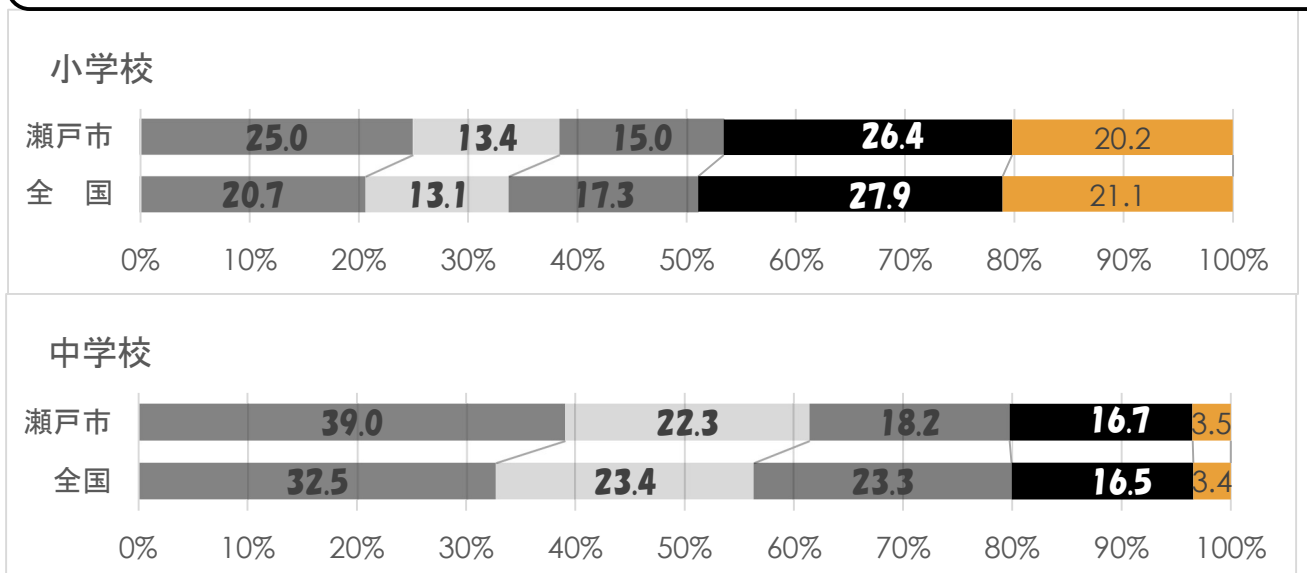


◇毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



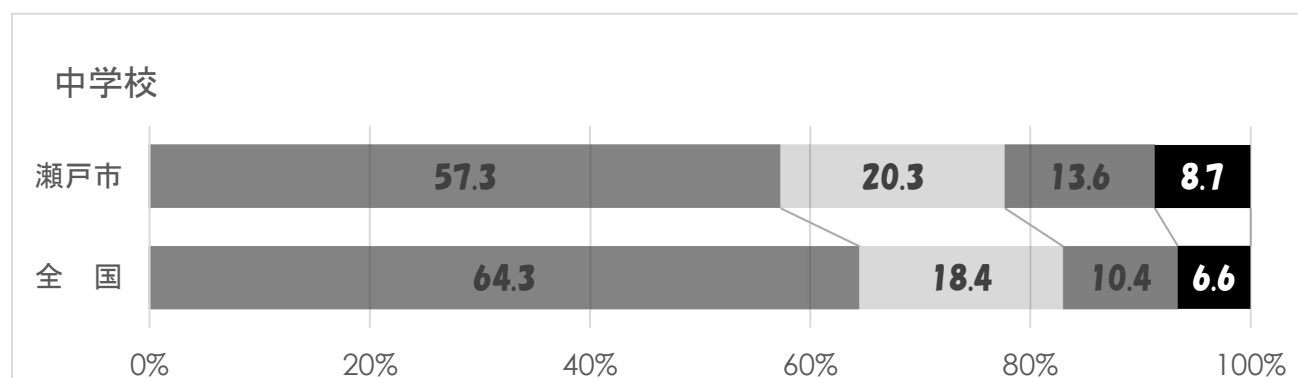
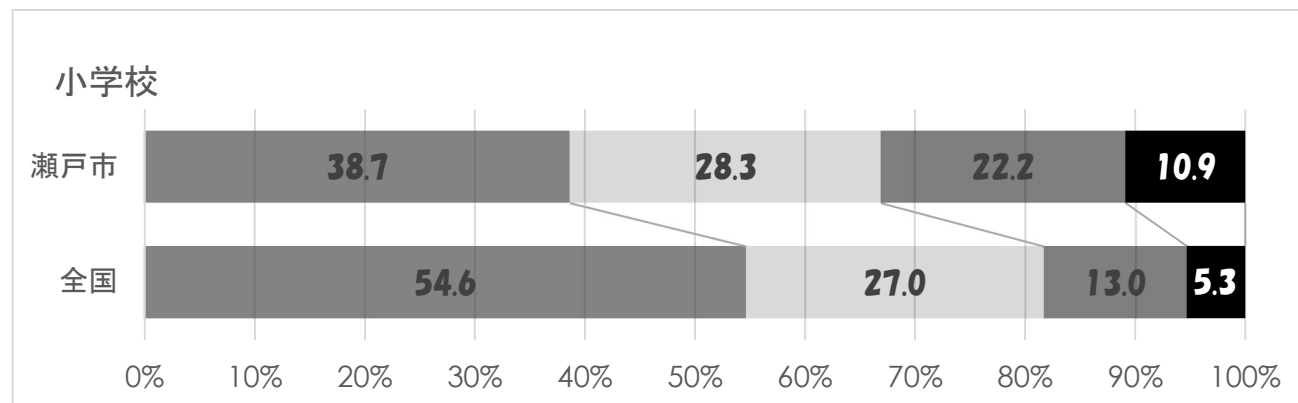
◇SNS や動画視聴を1日1時間以上しますか

★グラフは、左から「3時間以上」「2時間以上、3時間より少ない」「1時間以上、2時間より少ない」「1時間より少ない」「端末を持っていない」を示しています。

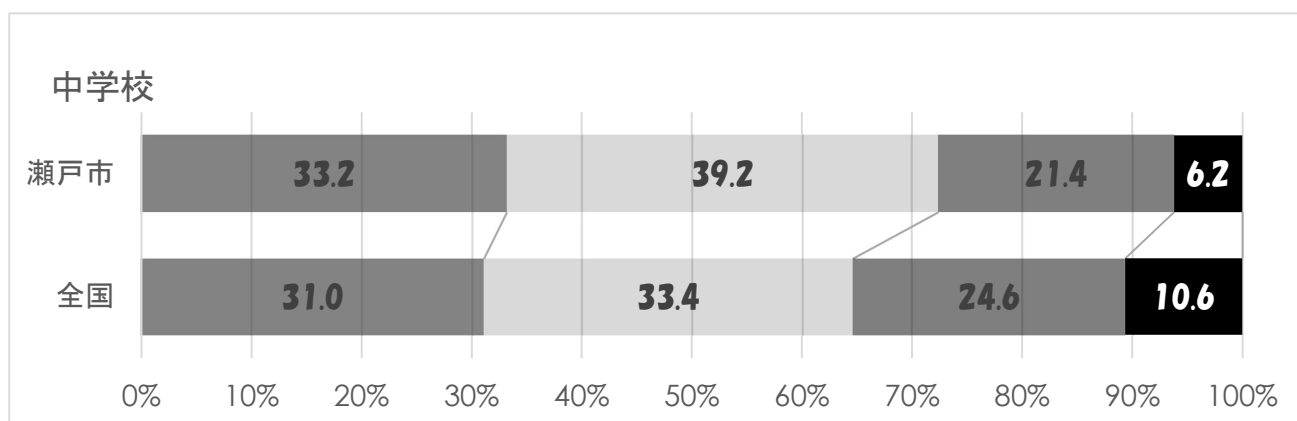
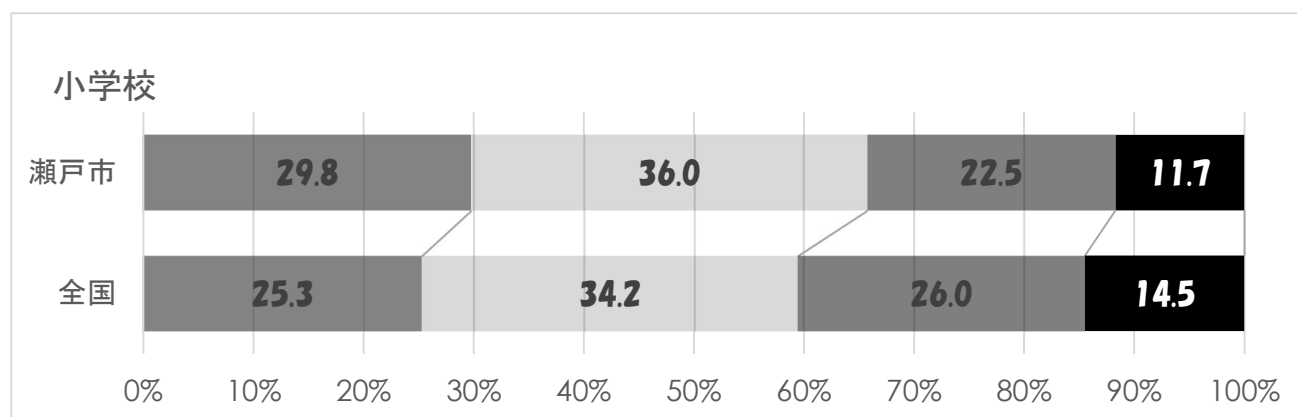


学習習慣

◇家で、学校の予習・復習をしていますか

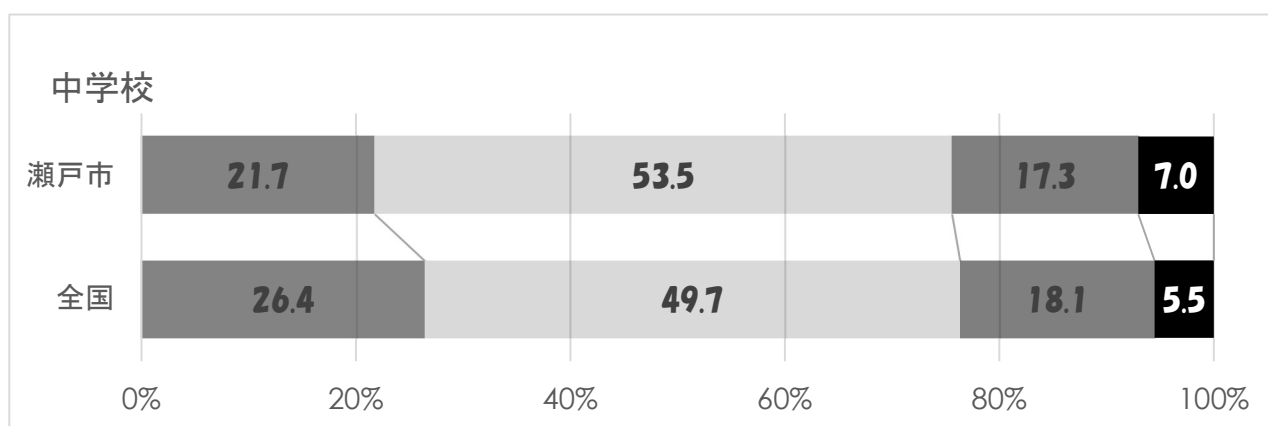
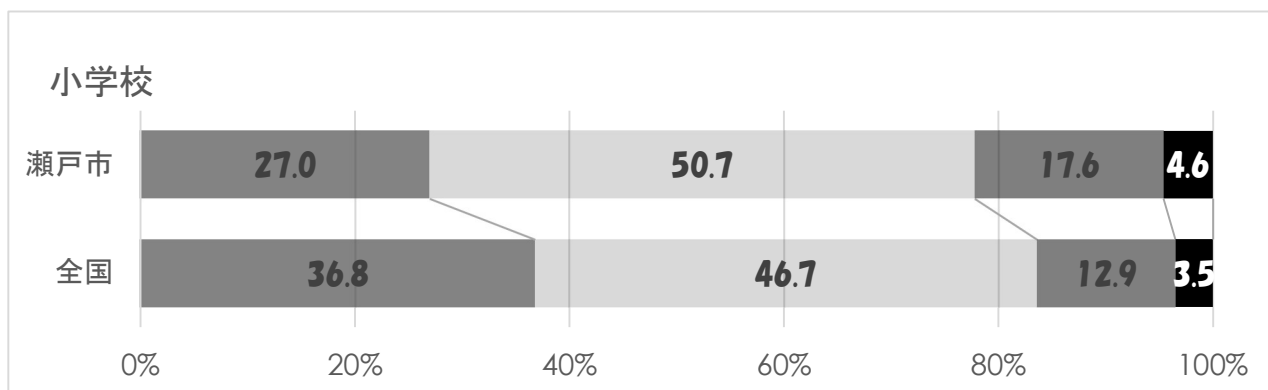


◇ICT機器を使って学習していますか



地域や社会との関わり

◇地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。



調査結果から

- 自分のよさを理解している児童の割合がやや低い傾向にあります。自らの価値に気づいたり、他者の良さや考えを認めたりする機会を増やしていくことが大切です。
- 平日に2時間以上、テレビゲームをしたりスマートフォンを使ったりする児童生徒の割合が高いという傾向が見られます。学校外で過ごす時間をどのように使うか、子どもと一緒に考えていくことが大切です。
- 持続可能な社会の創り手の育成していくため、学校・家庭・地域で子どもたちを見守り、地域や社会への関心や郷土を愛する気持ちを高めていくことが大切です。



【瀬戸市内小中学生の「よさ（◎）」と「課題（▲）」】

※令和6年度全国平均と比較し検証しています。

子どもたちの意識

◎人が困っているときに進んで助けていると答えた児童生徒の割合が高く、他者を理解し思いやりをもって関わろうとする意識が全国に比べて高くなっています。

▲人の役に立つ人間になりたいと考える生徒や、将来の夢や目標をもってしていると答えた生徒の割合は全国に比べて低い傾向にあります。

基本的生活習慣

◎朝食を毎日食べている児童生徒の割合が全国と比べて高くなっており、正しい食生活の習慣が定着してきています。

▲毎日、同じくらいの時刻に寝ている児童生徒の割合が低くなっています。また、スマートフォンなどの端末でSNSや動画を長時間視聴する児童の割合が全国より高い傾向にあります。

学習習慣

◎タブレットを活用して、友達と考えを共有したり比べたりすることができた児童生徒の割合が全国に比べて高い傾向にあります。ICT機器を効果的に活用していくことが、協働による深い学びにつながると期待されます。

▲学校の授業時間以外における1日当たりの勉強時間が全国と比べて短い傾向にあります。

地域や社会との関わり

◎普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがあると答えた児童生徒の割合が高い傾向があります。今後も学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを見守っていくことが大切です。

▲地域や社会をよりよくするために何かしたいと考える児童生徒の割合は全国に比べて低い傾向にあります。

予測困難なこれからの時代を生き抜いていく子どもたちには、互いを尊重し合い、協働して課題を解決していく力が求められています。

また、自ら課題を見つけ、自分に合った方法を考えて課題解決できる力を育てていくことも大切です。

瀬戸市では、仲間と関わり一人一人の異なる価値観や個性を認め合い合いながら課題を解決する力「協働型課題解決能力」の育成を進めます。また、地域や社会への関心を高め、子ども達が積極的に関わり合えるよう、「郷土愛」を醸成し、学校・家庭・地域による「連携強化」を進めます。

